

浜松市はままつ夢基金事業費補助金実績報告書

1 事業の概要

団体名	特定非営利活動法人はままつ未来会議
① 事業名	第14回 浜松ジオラマグランプリ
② 実施時期	令和7年 8月 21日(木)～ 令和7年 8月 24日(日)
③ 実施場所	ザザシティ浜松 西館1階 特設会場
④ 対象	一般来場者：浜松市民・全国ジオラマ愛好家・観光客 出展作品：公募ジオラマ（情景模型） 一次審査通過の50作品
⑤ 事業費総額 及び補助金 交付決定額	事業費総額： 635,448 円 補助金交付決定額： 180,000 円
⑤ 事業内容	「ものづくりの街・浜松」で行う「ものづくりの楽しさとすばらしさ」を競う日本最高峰のジオラマ（情景模型）コンペティション。 模型専門誌2社による一次審査を経て、全国から応募のジオラマ50作品を、浜松ジオラマファクトリーと同じフロアの特設会場に展示公開し、ジオラマの第一人者山田卓司氏など4人の審査員と一般来場者の投票を集計してグランプリおよび各賞を選定した。 グランプリは、ゆうさん（磐田市）の『なつかしの街角』に決定。高い造形力と丹念なものづくりの姿勢が多く鑑賞者の心をとらえ、一気に昭和情景の世界に引き込んだ。準グランプリは、岡田次雄氏（埼玉県）の『宿場町』。夕暮れの中山道奈良井宿を見事に美しい3Dの作品に再現した。 今年から、過去のグランプリ受賞者のみを対象とした新しいクラス「マスタークラス」を創設。初代グランドマスターには、青山祐司氏（愛知県）の『百鬼夜行～月光東照号のパレード～』が人気投票第一位とともに受賞した。 また、一般来場者の人気投票喚起のために、小学生以下の子どもを対象に、スタッフで木工作家である澤井隆治氏の手作り動物木彫約200作品と動物の特徴が記載された図録をプレゼントして、大いに喜ばれた。 期間中はNHKのテレビ・ラジオのローカルニュースが繰り返し放送してくれたこともあり、連日、老若男女多くの方が会場を訪れた。 来場者は約2700人。 上位入賞作品は、浜松ジオラマファクトリーで1年間展示する。

2 実施方法（どのように事業を実施したのか記入）

① 人員配置・役割分担	・計画～準備(大会開催要項、出展者募集、広報、助成金申請、後援申請、協賛社担当、会場、運営、審査員担当、表彰式、受賞者展、会計)：団体正会員 9 人 ・前日会場設営：団体正会員 9 人、ボランティア 3 人 ・大会当日運営（4 日間）：団体正会員 延べ 31 人、ボランティア 延べ 11 人
② スケジュール	①令和 6 年 11 月 大会開催要項、新レギュレーション発表 審査員調整 ②令和 7 年 5 月 20 日(火)～6 月 20 日(金) 作品公募（大会公式サイト応募フォームより） 公募ガイド掲載、SNS による話題発信を大会まで継続 ③6 月上旬 チラシ・ポスター制作、協賛社（景品等提供）獲得 ④6 月下旬～7 月上旬 第一次審査・通知、ボランティア募集 ⑤7 月上旬 エントリー料徴収、大会告知活動 ⑥8 月初旬 図録（公式パンフレット）制作、副賞・景品準備 ⑦8 月 20 日(水) 一次審査通過作品の搬入、会場設営 ⑧8 月 21 日(木)～24 日(日) 大会開催 作品展示公開、人気投票、審査、表彰 審査委員：山田卓司氏 ジオラマアーティスト 金子辰也氏 ドールハウス作家 美海きょうこ氏 浜松市美術館館長 飯室仁志氏 ⑨8 月 24 日(日) 16 時～ 会場撤収 ⑩8 月 25 日(月)～ ジオラマファクトリーにて受賞者展開催 ⑪9 月 グランドマスター等作者名入りオリジナル盾作成・贈呈、事業報告等

3 目標と効果（その事業によって市民がどのような効果を受けたのかを記入）

① 事業の目標	・多くの来場者を得て中心市街の活性化に寄与するとともに、ものづくりの楽しさとすばらしさを感じてもらうことで、ものづくり文化の醸成を図る。 ・浜松ジオラマグランプリ来場者を常設展の浜松ジオラマファクトリーへの入場につなげる。 ・浜松ジオラマグランプリを全国的に広めることで、観光化を図る。
② 効果の確認方法	・メディア（NHK テレビ・ラジオ、静岡新聞、中日新聞、浜松ケーブルテレビ）で放送・掲載された。（来場者 約 2,700 人） ・会場が来場者と出展者の笑顔であふれていた。 ・投票券のコメント欄で、作者・作品への温かいメッセージがたくさん

	寄せられた。(総投票数 3,963 票/一人 2 票) 参考：2023 年 3,240 票、2024 年票 3,560 票) ・グランプリ開催 4 日間の浜松ジオラマファクトリー入館者数は 587 人 (週末平均 50 人/日) ・初参加の出展者が 16 人と増えた。
③ 目標達成のための工夫	・メディア対応の日を初日午前中に設け、多くのメディアにプレスリリースを送った。 ・プレスリリースの活用、チラシ・ポスターの市内全協働センター及び文化施設、市内全図書館への掲示・配架依頼など、大会告知を積極的に行った。 ・紹介動画を複数作成し、SNS で宣伝した。 ・新たにマスタークラスを設け、審査方法を見直した。
④ 今後の展開	・上位受賞作品を浜松ジオラマファクトリーに展示する、受賞者展を 2026 年 8 月まで開催。随時 SNS にて情報発信する。 ・浜松ジオラマファクトリー内のモニターにて、グランプリのアーカイブを流し、「エヴァンゲリオンと昭和情景展～2026. 2. 28」の来場者に P R する。